

平成25年度 牛込第一中学校 学校経営方針

新宿区立牛込第一中学校長
赤沼 保江

はじめに

本校の現状は、伝統を尊重しながら、全校体制での教育活動を継続してきたことにより、安定した状況を維持しています。しかしながら、この安定した状況は、一つ一つの教育活動のマンネリ化や空洞化を招かないために、危機感を持って適正かつ迅速に対応しなければ維持できないと認識しています。25年度は、現状の安定にとどまることなく、社会や環境の変化、地域・保護者の要請を適切に受け止め、さらなる充実と発展をめざした教育活動を推進してまいります。本校の学校教育目標が掲げるのは、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」という「知徳体」のバランスのとれた生徒の育成です。この学校教育目標の具現化に向けて、昨年度に引き続き「不易」な生徒像を【自立】【共生】【健康】の3つのキーワードで今日的課題に結びつけ、3つの「めざす生徒像」を掲げ具体的な取り組みを展開してまいります。学習指導要領の目指す「生きる力」の育成を中核に据え、「新宿区教育ビジョン」の基本施策に沿い、教育活動をPDCAサイクルの中で捉えて常に改善を図りながら、家庭、地域との連携のもと「地域と共に歩む」信頼される学校づくりを目指してまいります。

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤として、国際的な視野に立った心豊かな国民を育成する

- 1、自ら考え、進んで実行する人 → 【自立】 → 確かな学力 →
- 2、思いやりのある情操豊かな人 → 【共生】 → 豊かな心 →
- 3、心身ともに健康で、明朗な人 → 【健康】 → 健やかな体 →

生
き
る
力

2 めざす生徒像

- 【自立】 → 1、自ら知識を身につけ、活用する生徒
- 【共生】 → 2、自他を尊重し、社会性と思いやりのある生徒
- 【健康】 → 3、心身を鍛え、逞しく生き抜く力を持つ生徒

3 めざす学校像

- 学習や生活の場にふさわしい 整然とした学校
規律ある落ち着いた環境の中で、一人一人が意欲的に学習、生活し、実生活で活用できる確かな学力が身につく学校
- 夢を育む 活力のある学校
全校体制で取り組む教育活動や生徒達が主体となって活躍できる行事・生徒会活動・部活動を通して自主性、思いやりを育てる学校
- 家庭や地域がともにつくる 特色ある学校
保護者・地域の教育力を生かしたボランティア活動や啓発的体験活動を通して、生徒の社会性を育てる学校

4 めざす教師像

個人として、専門的な力量・愛情と情熱・総合的な人間力を持った教師に！
そして、個の力を認め合い、補い合い、結集して教育活動を行なう教師集団に！

- ・ 自主的、創造的な教師

専門的な知識と実践的な指導力をもって、積極的な姿勢で指導に当たる教師

- ・ 心豊かな教師

生徒の声を聞き、生徒を心から愛し導こうとする教師

- ・ 心身共に健康な教師

生徒の前では常に澁刺として、公私ともに充実した生活をおくる教師

< 日々大事にしたい視点 >

- 生徒を見つめる視点は多面的に（良さの発見・同僚との意見交換）
- 優しさの中に厳しさを（いけないことはいけないという厳しさ）
- 些細なことを大切に（身だしなみ、「何か変だ」という教師の勘）
- 平等の原理を（人としては平等、人格を尊重して「くん・さん」呼び）

5 「めざす生徒像」の具現化への取り組み

I 自ら知識を身につけ、活用する生徒

(1) 授業の質的向上を図る

- ① 学習指導は授業が第一。「チャイムで始まりチャイムで終わる」50分授業で生徒の学習権を保証し、1時間1時間の授業の充実を図る。
- ② 授業を受ける際の基本（聞く態度、発言の仕方等）のさらなる充実を図り、基礎・基本の定着を図る。
- ③ シラバスを活用し、授業の目標、身に付ける力、評価の観点等について、教師と生徒が共有して効果的な学習を行う。
- ④ 学校の情報化に対応し、効果的なICT活用により授業改善を図る。
- ⑤ 観点別絶対評価の妥当性を確保し、「認める評価」「励ます評価」により学ぶ意欲の喚起を図る。
- ⑥ 生徒による授業アンケートを活用し、生徒と教師が共に良い授業を作り上げることで、「確かな学力」の定着を目指す。

(2) 個別指導の充実を図る

- ① 英語・数学の習熟度別少人数指導をはじめ、各教科の特性を生かした指導方法の改善を図り、生徒一人一人に対し、きめ細かな指導を行う。
- ② すべての生徒に基礎的・基本的内容の定着を図るため、定期考査前や放課後等の補充教室を充実させる。
- ③ 各種検定（英語、漢字、数学等）に積極的にチャレンジさせ、生徒に自信と学ぶ意欲を喚起する機会の増大を図る。

(3) 家庭学習を習慣化する

- ① 適宜ガイダンスを行い、家庭学習の仕方を指導して、自ら予習復習ができるようにする。
- ② ねらいを明確にした課題を出すことで、家庭学習の習慣化と基礎基本の定着を図る。
- ③ 自ら学ぶ姿勢を育て、家庭学習と授業の相乗効果によって学力の向上を図る。

今年度の重点課題1 自ら学ぶ姿勢の育成と基礎基本の定着を図る

授業の質的向上と家庭学習の習慣化により、自ら学ぶ姿勢を育て、基礎基本の定着および学力の向上を図る。

Ⅱ 自他を尊重し、社会性と思いやりのある生徒

(1) 生徒の主体性を伸ばす

- ① 「生徒が主体である」を総ての基本とし、二大行事である運動会、一中祭をはじめ生徒会活動における生徒の自主的活動を最大限支援し、自分を磨き、仲間と共に伸びる「善意の集団」をめざす学校づくりを推進する。
- ② 移動教室（1年） スキー移動教室（2年）を通して、自然の美しさ、厳しさを実感すると同時に、集団生活における「協力する心、思いやる心、規律を守る心」をはぐくむ。
- ③ 全校給食を通して、「協働」の意義を各自が自覚し、日々の学校生活やボランティア活動等に積極的に参加する姿勢を育てる。
- ④ 「あいさつをする」「時間を守る」を中心に、基本的な生活習慣や集団生活における規律の習得を図り、規範意識の向上をめざす。
- ⑤ 異学年集団との「全校体制」での交流（全校給食、キャリア教育、牛一ネオタイム等）を通して、自分の立場を自覚し、自らの力を生かし集団に貢献する姿勢を培う。

(2) 豊かな心を育てる

- ① 新宿区人権教育推進校としての取り組みを通して、自他を尊重する心や相手を思いやる心をはぐくみ、人権感覚を磨いていく。
- ② 道徳授業地区公開講座等での地域人材（ゲストティーチャー）の活用を通して、地域の一員としての規範意識や公共の精神の高揚を図る。
- ③ いじめについては、早期発見・早期対応に努めていく。さらに、生徒会活動、学級活動等を通して生徒自ら防止の気運を高めていくため、計画的、継続的な指導を行う。
- ④ 不登校生徒については、家庭との連絡を密にして信頼関係を築くとともに、スクールカウンセラーや区の教育相談室、つくし教室とも連携して、復帰ならびに卒業後の進路を見据えながらじっくりと対応する。
- ⑤ 特別支援教育については、特別支援教育コーディネーターを中心に生徒理解の研修を深め、「それぞれの違いを認め合う」支援姿勢で個々の生徒に対応し、ノーマライゼーションの浸透を図る。
- ⑥ 能楽教室（全校）、美術鑑賞教室（1年）、音楽鑑賞教室（2年）、修学旅行（3年）等を通して、本物に触れる機会を拡げ感動体験を積み上げ、豊かな情操をはぐくむ。
- ⑦ 全教職員が一人一人の生徒の顔と名前を覚え、個々の生徒の違いを受け止め、生徒に寄り添うカウンセリングマインドによる指導姿勢を貫き、生徒理解を深める。
- ⑧ 年度当初の家庭訪問を主体とした教育相談、2学期末の教育相談等を通して、生徒理解を深めると共に、家庭との連携を密にし、一人一人の学習習慣の定着と学習意欲の向上を図る。

今年度の重点課題 2

全校体制の教育活動を通して、生徒の自主性を育て、認め合う集団を作る

学校生活のあらゆる場面における元気なあいさつと、時間を守る指導を徹底するとともに、生徒の自主活動を支援し、一人一人を認め合う雰囲気づくりをすすめる。

Ⅲ 心身を鍛え、逞しく生き抜く力を持つ生徒

(1) 食育の推進

- ① 全校給食を実施している本校の特色を生かし、食の大切さ、食の楽しさ、食のマナー等を日々の給食を通して知らせながら、偏食をなくしバランスの良い食習慣の定着を図る。
- ② 食育推進チームを中心として、学年の実態に応じた食育を推進する。

(2) 体力の向上

- ① ティームティーチングで実施する体育の授業では、個々の生徒に応じた基礎体力の向上と健康維持への意識を育てる。

- ② 移動教室（1年） スキー移動教室（2年）を通して、自然の美しさ、厳しさを実感すると同時に、心身ともに鍛える体験をする。
 - ③ 部活動は「生徒の特性や可能性を伸ばす機会」「学年を超えて教え合い技能を磨く場」としての意義は大きい。文武（部）両道を合言葉に全校体制で支え、外部指導員と連携して部活動の活性化を図る。
- (3) 安全、安心の学校づくり
- ① 「学校安全計画」に基づき、安全指導、避難訓練等の安全教育を強化していく。
 - ② 地球規模でのCO₂削減への意識の高揚を図ると同時に、節電、節水、ゴミの分別等の省エネ・省資源に対する実践力を身に付けさせ、環境教育を推進する。
 - ③ セーフティ教室では、三年間で下記の講座をすべて受講し、規範意識の向上を図る。
 - 1年 携帯電話安全教室
 - 2年 アルコール飲料との正しい接し方及びAED講習
 - 3年 薬物乱用防止講座

6 特色ある教育活動の推進

- ① 総合的な学習の時間では、全校体制の取り組みである課題追求学習「牛一ネオタイム」、生き方を学ぶ「キャリア教育」、本物に触れる「伝統文化」を通して、常に課題意識を持ちその解決に向かう姿勢、自分の「よさ」を発見し、その「よさ」を伸ばし自己実現をめざす態度を培う。
- ② 「牛一ネオタイム」では、自らの興味・関心に基づき課題を設定し、取材活動等により情報を集め調査・研究し、まとめ、発表をする活動を通して、思考力、判断力、表現力を育成する。今年度は特に、プレゼンテーション能力の育成など、表現力の育成に努める。
- ③ 3年間を見通したキャリア教育を意図的、計画的、継続的に実施し、生徒が将来に展望を持ち主体的な進路選択ができるようにする。
 - ・2年生で実施する職場体験学習（事前・事後訪問を含め5日間）
 - ・全学年による「上級学校を知ろう」・「校内ハローワーク」
 - ・今年度より2学年3学期から保護者対象の進路説明会を計画し、より良い進路選択を支援していく。
- ④ 朝10分間の読書を完全に定着させる。また、学校図書館スタッフと連携して積極的な図書館利用を促進する。

今年度の重点課題3 総合的な学習の時間において、思考力、判断力、表現力の伸長を図る

総合的な学習の時間は時間数が減少する中で、ねらいを明確にして実施し質的向上を図る。

7 保護者、地域との連携

- ① 保護者や地域住民へ学校公開・学校行事への参加を促し、肌で生徒の活動を理解してもらう機会の充実を図る。
- ② 各学期1回の土曜授業公開（1学期 教育課程説明会、2学期 新入生保護者説明会、3学期 牛一ネオタイム全校発表会）を設定し、更なる学校公開機会の増大を図る。
- ③ 生徒に地域の一員としての自覚を持たせ、地域行事への積極的な参加、さらに地域でのボランティア活動にも意欲的に取り組ませる。
- ④ 総合的な学習の時間や各教科の授業、さらに面接練習への地域の人材活用を積極的に推し進め、協力と連携の中で生徒を育成する。
- ⑤ 学校内外での生徒の健全育成上の課題解決のため、学校サポートチームを有効に活用する。
- ⑥ 自己評価を7月と12月に実施することで課題への対応スピードを上げて課題解決に当たる。また、学校評価の精度を上げ、学校関係者評価を生かして学校改善に努め、信頼される学校づくりを推進する。
- ⑦ 校内経営支援部を設置し、校務の効率化を図るとともに、地域保護者の声の収集やホームページの充実を目指して広報活動に当たる。

今年度の重点課題4 保護者地域とともに進める学校づくり

教育活動へ参加していただく機会を増やしたり、学校公開や各種たより、ホームページ等を通して発信したりすることで、保護者、地域の方々の理解と協力を得ていく。